

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

## ⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—129295

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>  
C 10 M 7/26  
// B 22 C 3/00  
C 08 F 230/02

識別記号

庁内整理番号  
7824—4 H  
6689—4 E  
7308—4 J

⑬ 公開 昭和59年(1984)7月25日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 5 頁)

## ⑭ 離型剤

①特 願 昭58—3187  
②出 願 昭58(1983)1月12日  
⑦発 明 者 松本泰宏  
奈良市南城戸町58—3

⑫発 明 者 西富克彦  
堺市浜寺諏訪森西2—104  
⑪出 願 人 大日本インキ化学工業株式会社  
東京都板橋区坂下3丁目35番58号  
⑭代 理 人 弁理士 高橋勝利

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

離 型 剤

## 2. 特許請求の範囲

基  
パーフルオロアルキル含有ビニル単量体(a)を20~80重量  
%、一般式〔I〕 $\text{CH}_2=\underset{\text{R}_1}{\text{C}}-\text{R}_2-\text{O}-\underset{\text{O}}{\overset{\text{O}}{\text{P}}}(\text{OM})_m$ 〔I〕  
(但し、 $\text{R}_1$ は水素原子あるいはメチル基を表わし、 $\text{R}_2$ は  
炭素数6以下のアルキレン基又は置換したアルキレン基あ  
るいはそれらとエーテル基、エステル基、アミド基等が連  
結した2価の結合基を表わし、 $n$ 、 $m$ は1あるいは2であ  
り、かつ $n+m=3$ である。 $\text{M}$ は水素原子、アルカリ金属  
原子、アンモニウム基、又は置換アンモニウム基を表わす。  
て表わされるリン酸基含有ビニル単量体(b)10~50重量  
%と一般式〔II〕 $\text{CH}_2=\underset{\text{R}_1}{\text{C}}-\overset{\text{O}}{\text{C}}-\text{O}-\text{R}_3$ 〔II〕  
(但し、 $\text{R}_1$ は水素原子あるいはメチル基を表わし、 $\text{R}_3$ は

炭素数6~30のアルキル基を表わす。)

て表わされる炭化水素系ビニル単量体を10~70重量%  
を重合して得られる共重合体を含んでなることを特徴とす  
る離型剤。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は離型剤に関するものである。

更に詳しくは、ゴム、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂等の  
高分子化合物又はセメント、セラミック等の成型物製造の  
際に金型に塗布して使用される様な優れた離型効果及びそ  
の持続性を有する離型剤に関するものである。

かかる用途の離型剤としては従来シリコンオイル、バラ  
フィンワックス、鉱物油等が使用されているが、離型効果  
が不充分であつたり、離型剤が樹脂等の成型品に付着して  
成型品の品質低下を招く等の問題点が多く見られ、十分な  
ものとは言い難い。又、ある種のフッ素系化合物が離型性